



ちょっとそこまで～お散歩日和(名言編)～



どんな夢でもかなえる魔法… 高田尚輝



どんな夢でもかなえる魔法／それは続けること

苦しみ悲しみその先見える光／自分の道ずっとずっと Continue …… 高田 尚輝 (SEAMO)

もう14～5年前になると思いますが、水野敬也著「夢をかなえるゾウ」がTVドラマ化されたときに、主題歌だった曲が大好きです。SEAMOの「Continue」です。「威風堂々」のメロディが軽快に流れる中、前向きに生きていこうと訴えかけてくる歌詞がとても心に響いてきます。

♪出来ないからやらないんじゃない／出来ないからこそやるんじゃないの？
格好悪くてもやってみようよ／君が思うより君は強いんだよ
負けたら終わりじゃなくて／やめたら終わりなんだよね／
どんな夢でもかなえる魔法／それは続けること
苦しみ悲しみその先見える光／自分の道ずっとずっと Continue ♪



どうして心に刺さるものがあるかと考えてみますと、私自身がどうも最近、新しい世界や未知の分野を目の当たりにすると臆病になったり、後回しにしたり、時には逃げ出したり遠ざけたりする傾向が強くなっていることへの警句になっているからではないかと推察します。無意識ながら「もう少し頑張って続けなさいよ。」と自身を叱咤しようとしているに違いありません。

昔から「継続は力なり」という言葉が使われていますし、諺にも「千里の道も一步より」「雨だれ石を穿つ」「塵も積もれば山となる」があります。最近では、イチロー選手の「夢や目標を達成するには1つしか方法がない。小さなことを積み重ねることだ。」という言葉も有名です。アインシュタインも「天才とは努力する凡才だ。」と言っています。これは、2人とも決して最初から偉業を成し遂げていたわけではなく、継続する努力を惜しまなかった結果、大きな成果を得られたと教えてくれているのでしょう。



ところで、沖方丁の「光圀伝」に、次のフレーズがあります。

「ここまできた。そう思ったときには、頂きは更に遠くに離れた所にある。近付けば近づくほど、頂きは高くなるようだ。峠を登る時、遠目には低くとも、麓に来れば高さが分かる。実際に登り始めれば、頂きは見えないほど高くなる。」

一度でも山に登ったことがあれば、この体験に合点が行くことでしょう。山頂まで目と鼻の先だろうと高をくくって登り始めたけれど、行けども行けども景色は変わりません。辛いこと甚だしい。しかし、これでもかこれでもかと継続することで、いつの日か必ず一気に景色が広がる場所に立つことができるものです。これを幸いだとすれば、どんな幸いも、その陰には必ず辛い何かがあるという事を示唆していることとなります。何とも胸がきゅんとする文章ではありませんか。

当たり前のことですが、私たちの日常は、晴れの日ばかりが続くことはありません。アラビアに「時々蜂蜜、時々玉葱」という諺があります。コミカルな味付けですが、蜂蜜のような甘い日々ばかりではなく、時には玉葱の辛味もあると言っているのです。でも、それこそが人生の轍だと思います。人生楽あれば苦あり。山り谷あり。いや、人間万事塞翁が馬かな。

もちろんそれらも含めて、さらにもう一歩進んで考えたいとも思っています。

それは、前述したように、私たちの日常では全てがうまくいくということはありません。むしろ、失敗したときこそがチャンスだと考え、正面から向き合い、何かを拾って立ち上がれば、失敗の数だけ成長できます。そう考えると、思い通りにいかないことがあったとしても怖れることはないということになります。



ところで、ディズニー・アニメに「インサイドヘッド」という作品があります。ご覧になったでしょうか。このタイトルの意味は「インサイド=内側」「ヘッド=頭」ですから、「頭の内側でのできごと」となるのでしょうか。主人公の少女ライリーの頭の中にある「ヨロコビ、カナシミ、イカリ、ムカムカ、ビビリ」という5つの感情がドラマの進行役になって展開する物語です。しかし、原題は「Inside Out」となっていることは、あまり知られていません。こちらの意味は、「裏返し、あべこべ、裏表、ひっくり返し」などになるのですが、これで思春期の少女の複雑な感情、コントロールできないも

どかしさを言い表そうとしているのだと推察します。

5つの感情のリーダー役であるヨロコビは、とにかくライリーを喜ばせることこそが新たな行動を起こす重要なスイッチだと信じて疑いません。しかし、ただ喜ばせようと試みただけではライリーの心が動かないことに気付きます。動かすためには、それまでマイナス要素だと思っていた怒らせたり、ビビらせたりすることも必要であること。中でも、特に重要なのが悲しむことだと気付かされる、そんな物語です。

思い出をより輝かせるものとは、喜びや悲しみ、怒り、むかつき、ビビリと表裏一体になっているものなんだ。もっとストレートに表現すれば、喜びは悲しみのひっくり返し、表裏一体、感情の裏表なのだ、このタイトルは訴えていることになります。

(終)